令和４年度学校だより

善誘館 No.１２

甲府市立善誘館小学校　校長室

校　訓　「善行・勤勉・体育」
学校教育目標
○　思いやる心をもつ子
○　よく考え工夫する子
○　元気でたくましい子

２０２３．２．２０

「心を鬼にする」ということ ～ 相手のためを思って ～

来週から３月，春の到来が待ち遠しいこの頃です。学校も進学，進級に向けそれぞれの学年が「今やらなければならないこと」を，まじめに一生懸命がんばっています。学校では令和４年度のラストスパートに向け，今後も子供たちの安全・安心のため，これまで以上の緊張感をもって教育活動に臨みたいと思います。保護者の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。少し前の話とはなりますが，今回は「節分」について話をさせていただきます。

２月４日は「立春」でした。暦の上では，春ということになります。前日の２月３日 は「季節を分ける」という意味で「節分」です。この節分の日に，豆まきをされる御家庭も多かったのではないでしょうか。もともとは，季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると意味で，鬼をはらうために豆まきが始まり，「豆（穀物）には生命力と魔除けの力が備わっていて，鬼に豆をぶつけて邪気を追い払い，１年の無病息災を願う」のだそうです。季節の変わり目には，体調がすぐれないという事もあるので，こうした行事が行われてきたのかもしれません。「福はうち，鬼は外」が一般的ですが，「福はうち，鬼はうち」とする地方もあると聞きました。鬼を祭っているからだそうです。よい鬼の話も実は，民話のなかにはたくさんあります。（私は民話ではないのですが『泣いた赤鬼』の青鬼が永遠のヒーローです）

ちなみに我が家の節分のかけ声は「鬼は外！福はうち！鬼の眼（まなこ）を叩きつぶせ！」です。

（御先祖様は過去にどれだけ鬼を恨んでいたことか・・・でも，私は青鬼がマイヒーローなので…）

ところで，以前テレビを観ていたら，「心を鬼にする」という話をしていました。ある体操クラブの話でしたが，子供たちの才能を開花させるには，「心を鬼にして」指導するというのです。「誉めて育てる」，「子供の気持ちにそって話を聞く」等，どちらかというと「心を鬼にして」厳しく接することは少なくなったように感じます。クラブのコーチの厳しい指導に涙を流す子もいましたが，技ができたときの達成感を「厳しいけど，とてもうれしい」と表現していました。

「心を鬼にする」とは「他人に対して，可哀想だと思いながらも相手のためを思い，厳しい態度をとる」という意味です。一つ注意してほしいことは，「可哀想だと思いながらも」という部分です。平気で辛く当たっているのではなく，「相手のためを思って」心を痛めながら厳しくしている様子です。そうでなければ「心を鬼にする」ではなく，単なる「鬼」です。

今年度も残りわずかとなりました。義務教育の９年間のうち，６年間の小学校での育ちは大変重要です。ですから，学校では毅然とした態度で指導しなければならないことが多々あります。その子にあった方法で「誉めて励まし」「話をよく聞いて」たまには「心を鬼にして」指導を行ってまいります。これまでの児童一人一人の育ちを振り返り，あと１か月でベストな状態で進学・進級できるよう，教職員一同がんばります。御家庭でも御協力をよろしくお願いいたします。

○「なでしこ賞」「教育祭図工・美術作品展」「教育祭書き初め大会」「音楽創作力くらべ」表彰

２学期末からの子供たちの「学習や活動の成果」を認めあう機会がとれずにいました。そこで，２月１６日に「ゼンユウタイム」の時間を使って，『なでしこ賞』の表彰と，『図工・美術作品展』と『書き初め大会』『音楽創作力くらべ』の入選者の発表と，賞状を ６ 年生の代表に渡すこととしました。本来は子供たちのがんばった結果を，全校のみんなの前で披露してあげたかったのですが今回はこのような形をとらせて頂きました。これからも善誘館小学校の子供たちの「がんばり」に期待しています。

☆お互いのよさを知り，認め合うこと☆

～校長雑感～

『うさぎとかめ』のお話の続きにまつわる話をいくつか紹介します。

一つ目は，競争を終えたうさぎが自分の町に帰ると「かめに負けるなんて恥さらしだ」と言われ町を追い出されてしまいます。しかし，おおかみが町を狙っていることを知り，おおかみをだまして町を危機から救ったうさぎは英雄として迎えられたというお話です。

二つ目は，かめはやれば何でもできるということを勘違いし，絶対に空を飛べると自分に言い聞かせて，わしに高い所に連れて行ってもらって大けがをしたというお話です。

三つ目はうさぎがかめに再挑戦したというお話です。うさぎは今度は油断していないので圧倒的な速さで勝利しました。でもかめはこう言いました。「勝負には負けたけど，前回よりも早くゴールできたんだ。自分に勝ったことがうれしいんだ。」（私はこのお話の続きが好きです）お話の続きはいろいろありますが，楽しいお話になるように想像し，考えたことを書いてみると，楽しさが広がります。想像することは，相手の気持ちを考える力にもつながります。お互いのよさを知り，認め合うことを学びの場で大切に意識していくことで「自分がこういうことをしたら，相手はどう思うだろうか」「こうすれば友達も自分も気持ちよく遊ぶことができるだろうな」と考える心のゆとりが生まれてきます。このような温かい心があると，不愉快な思いをするお友達は一人もいなくなるはずです。友達を大切にして楽しい学校生活を創っていきましょう。

これから３月の修了式までそれぞれの学年にとってまとめの時期になります。４月に入学してきた１年生はもうすぐお兄さん，お姉さんとして新１年生を迎えます。また，６年生は，中学校入学を控えて卒業式の準備が本格的に始まります。寒い冬の間，土の中で着々と養分を吸収し，春になると昨年よりも一回りも二回りも大きく立派な花を咲かせる植物たちのように，しっかりと日々の学習に取り組みさらなる飛躍への準備をしていく時期です。少しずつ春がやってくるのを楽しみに，しっかりとまとめの学習を行いましょう。

～～～～～～～～～～～ 学校生活の様子より ～～～～～～～～～～～

＊『プログラミング教室』

１月３１日（火）の３校時にスマイル，やまなみ学級，５校時に６年生が一般社団法人「アイやまなし人材育成協会」から講師を招いて，『プログラミング教室』（６年生は２回目となります）を行いました。

スマイル，やまなみ学級では，人型ロボット Pepper くんのプログラミング用のアプリを使って，Pepper くんと会話をしたり，Pepper くんと一緒に踊ったり，ゲームをしたりして楽しみました。最後は簡単なパソコン入力（プログラミング）をしました。

２回目となる６年生は，少し高度なプログラムにも挑戦をしてプログラミングの基礎を深めました。

子供たちは，実際に自分がプログラムした通りに動いたり会話をしたりする Pepper くんを観て，とてもいい顔をしていました。

＊すきまちゃんの すきな すきま（１年生：図工）

１年生は「すきまちゃんの すきな すきま」の題材で，担任の先生が「すきまが だいすき すきまちゃん。きょうも すきまをさがして いるよ。どこの すきまが おきにいりかな。」と呼びかけて，「すきまちゃん」をつくりました。１年生は「こうちょう先生小さなすきまちゃんだから，きっとこんなすきまを見つけるよ」と言いながら，いつもは見ない場所をすきまちゃんと一緒に探しました。すきまちゃんを通して様々なすきまの形や面白さに気づき，楽しむことができました。きっと家でも様々なすきまを「すきまちゃん」と一緒に見つけ，学びが生活につながると思います

☆「できることを増やしてクッキング」（６学年）

２月７日（火）に６年生が家庭科で感染症対策をする中，約１年８ヶ月ぶりの調理実習を行いました。内容は「できることを増やしてクッキング」（朝食の主食にあうおかず作り）です。久しぶりの調理実習のため，ガスコンロの火が強すぎて焦げてしまったり，味付けを忘れてしまったり，と幾つかのハプニングもありましたが，調理実習で見せた子供たちの笑顔がすてきでした。